

## 令和元(2019)年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

研究課題名	熱帯泥炭林のオイルパーム農園への転換による生態系機能の変化と大気環境への影響
研究代表者	平野 高司 (北海道大学・大学院農学研究院・教授) ※令和元(2019)年7月末現在
研究期間	令和元(2019)年度～令和5(2023)年度
科学研究費委員会審査・評価第二部会における所見	<p>本研究は、泥炭の好気性分解が進む熱帯泥炭林のオイルパーム農園などに設立されたタワー観察サイトをネットワーク化し、そこで確立されたデータベースの総合解析などからオイルパーム農園の拡大が温室効果気体（GHG）収支および地域規模の気候システムに与える影響を定量化・モデル化するものである。</p> <p>熱帯泥炭林の土地利用変化が、その生態系と環境に及ぼす影響評価は学術的に見て推進すべき重要な課題である。本研究の学術的問いは明確で、4つのサブテーマに分かれた研究手法は実現性が高い。さらに社会的意義として温暖化防止への貢献も期待される。</p>